

令和5年度 第2回専門研修会

「ボディ・パーカッション実技研修会」報告

令和5年8月22日(火) 9:00~12:00 港区立三田中学校
講師：打楽器奏者 山本晶子先生 他2名

立秋とは名ばかりの猛暑の中、大変「熱い」研修が行われました。研修冒頭の講師の先生方による自己紹介から、音楽のコミュニケーション力を感じるパフォーマンスでスタートし、あっという間に引き込まれました。続いて、これまでの先生方の講演の様子を御紹介いただき、日用品を用いた学校公演での様子など、現場での実践例を拝見しながら、これからの授業で実際に取り入れた際の生徒の反応など、様々なことに思いを馳せ、いよいよ研修は実践へと進みました。



「手で鳴らせる音色を見つけよう」では、手合わせだけでなく、指同士や爪同士を合わせたり、こすったり、はじき打ったり・・・様々なバリエーションを御紹介いただきながら、我々もすぐ実践しました。身体の動きと音色、音高、強弱とたくさんのバリエーションが創り出せることに、改めて感激いたしました。そして、「コール&レスポンス」では、平易なリズムに始まり、だんだんと難易度を上げ、チャレンジレベルのリズムまでつないでいくことで、最後は上手に出来るか!?我々もドキドキしながらの演習でした。そして、一通りのパターンを練習した後は、すぐに講師の先生によるピアノの生演奏に合わせて



の演奏。会場全体に一体感を感じながら、自らの身体を楽器としてリズムを奏でることの楽しさを全身で感じ、曲の最後には、かっこよくポーズ!講師の先生から、「先生がまずカッコ良くキメてください!」とアドバイスが入りました。講師の先生のアドバイスの一言一言に、生徒を主体的な活動へと引き込むヒントをたくさんいただきました。

ポーズを考えた後は、いよいよリズム創作へと進みます。

リズム創作では、まず、各自が作ったリズムを参加者全員によるコール&レスポンスのリレーで発表しました。全員が主役となった後は、グループに分かれて四重奏の創作をしました。アイデアを出し合いながら、創作して練習、そしてグループごとに披露しました。各グループの演奏に刺激を受けながら、生徒の立場にもなり、たくさんの学びをいただきましたが、何より心から楽しむことのできた研修となりました。



東京都中学校音楽教育研究会では、令和6年2月2日に府中の森芸術劇場にて行われる今年度の研究発表会において、ボディ・パーカッション曲を教材とした、中学1年生《器楽》「テクスチュアを生かして、身体を使ってアンサンブルしよう」の公開授業を行います。ぜひ会場にお越しください。